



東日本巨大地震被災地に 思いを馳せて

春、卒業生が巣立ち、新入生が入学してきます。年度の変わり目です。大学が最も輝き、また忙しい時期でもあります。この胸躍るはずの春の始まりを間近にひかえた3月11日、大変なことが起こってしまいました。東日本巨大地震です。想定をこえた揺れにより建物は倒壊し、巨大津波は瞬時にして北海道から福島県までの太平洋沿岸の町をのみこんでしまいました。陸前高田、大船渡、気仙沼、南三陸…、跡形もなく破壊されつくされた都市を映した上空からの映像は、65年前の長崎の悲しい記憶、原子野の光景と重なるものでした。そして、東京電力福島第一原子力発電所における爆発事故です。映像メディアから流される被災地の惨状から目をそらしてはいけません。しっかりと被災地で今何が起きているのかを見届ける必要があります。未だ瓦礫や泥流の下で眠る多くの犠牲者の無念や、最愛の家族を奪われた遺族の皆様への悲しみに思いを馳せ、これから被災地や日本という国を襲うであろう困難を見据えなければなりません。そして、それぞれが、何ができるのか何をなすべきなのかを熟慮し、決断し、行動に移す必要があると思います。それだけの大危機だと思っています。

長崎大学は、日常業務を少々犠牲にしても、東日本巨大地震の被災者の支援と被災地の復興支援に全力を注入することを決断しました。すでに、本学の緊急医療援助や緊急被ばく医療の専門家が現地に入っています。水産学部の練習船「長崎丸」も緊急援助物資を満載して被災地へ向けて出航しました。長期にわたる支援活動となるでしょうが、政府や自治体など関係諸団体との緊密な連携の下、長崎大学の持ち味を最大限に生かして、実効ある支援活動を行なっていきたいと思っています。

平成二十三年 卯月



| CONTENTS |

【特集1】テニユア・トラック制度が育む 次世代の若手研究者たち	1
【グラバー図譜】コイチ	8
【現場に飛び出せ！躍動するフィールドワーカーたち】第4回 国際社会開発への挑戦	10
【特集2】片峰学長が語る明日の長崎大学	13
【長大ニュース】	18
【温故知新】第3回 シーボルト記念碑	20
【インフォメーション】・【編集後記】	21